“若者のいる街は活性化する”
「いきいき市民講座」第100回記念特別企画番組のこと

2007年4月、J：COM下関ネットワークと連携するTV番組「いきいき市民講座」がスタートした。山口銀行有力OBの支援とJ:COM下関トップの社会貢献意識(CSR)が旨くマッチングした地域活性化プロジェクトであった。同年6月、番組企画を組織的に担当する任意団体「いきいきモニター会議」が発足し、会長に山口銀行OB、幹事に私が就任した。下関市内にキャンパスをもつ5つの大学（下関市立大、水産大学校、梅光学院大学、東亜大学、下関短期大学）の教職員、地元企業OBや近隣社会の人々が集い、J:COM下関のプロ人材と無償提供された収録施設を利用した活動が始まった。スポンサーなし、全てがボランティア活動から成り立つ、前例のない仕組みであった。

難産の末に誕生したボランティア・プロジェクトであったが、スタートして見ると、大学の持つ豊富な講師陣、関係者の強い社会貢献意欲、視聴者である地域社会の理解と支援に恵まれた。55分番組を毎月2本編成し、7月現在、J：COM下関ネットワークで第100回記念特別企画番組を放映中である。J：COM九州の協力を得て、北九州市エリアでも7月24日（日）と31日（日）に特別放映されることになった。

この第100回記念特別企画は、関門エリアの活性化、それも若者を中心とする地域創成と活性化を狙った番組編成にあった。幸い、関門海峡の両岸北九州、下関の市長と下関に本店を置く山口銀行頭取の積極的な理解と支援を得た。想定をはるかに超えた充実した番組が出来上がった。各55分の2部構成からなり、第1部は両岸市長、頭取による鼎談「関門エリアの活性化を語る」、第2部は「市長と若者が熱く語る“関門エリアの未来と下関”」である。この4年間、第100回までの活動を通じて、“地元力”と“地域力”の強靭さを改めて知ることになった。

関門海峡を発信地とする“海峡ブレティン”では、このような地域活動の“潮の流れ”の一端を、是非皆さんに知って貰いたいと思った。TV映像をリアルに文章化することは困難であるが、以下に紹介する配布資料等から少しでも番組内容を想像して頂ければ幸いである。

第1部は、私が、冷や汗ものの進行役を務めたが、「マイクが遠い！」…と、幾度もディレクターの手信号を受けた。幸い、出演者からは「海峡総合大学」構想などいくつか踏み込んだ発言も出され、密度の濃い内容に仕上がったと思われる。やはり「役者が大物」だった。両市長、頭取の率直な対応に感謝、感謝である。

 Copyright Reserved.

第２部は、これまた素晴らしい出来栄えで、大変濃密な内容に仕上がったことは感激だった。若者代表の力強い自信に満ちた具体的提言、アドバイザーの“簡にして明なる”コメント、正に感動ものだった。後で分かったことだが、下関市長の正確な人名記憶、発言に対する的確なコメントは、全てその場のアド・ホックで、事前準備一切なしとのこと。政治のプロとは云え、これまた驚きであった。それにしても、ここまで座談会の完成度を高めてくれた佐藤　隆先生（下関市立大）、福田達也先生（東亜大）の努力に頭が下がる思いである。

しばしば「今時の若いやつは…」との言葉が巷間聞かれる。しかし、今回の座談会での発言や態度を見ていると、「若者なかなかやるな～」との印象を強く持った。“後事を託す人材はいる”。そして“地域に必要な人材は、地域自らが育成しなければならない”との思いを新たにした。まさに、“若者のいる街は活性化する”…と改めて信じたシーンであった。

【配布資料】　収録日：2011年6月18日（土）

Ｊ：ＣＯＭ下関連携「いきいき市民講座」
第100回記念特別企画番組

ご挨拶　「いきいきモニター会議」（大隈記）

本日はご多忙の折、北九州市北橋市長、下関市中尾市長、そして当地に本店を有する山口銀行の福田頭取にご出席頂きました。地域社会への貢献を目指す主催者としては、大変光栄なことであり感謝致しております。会場を快くご提供頂きました下関市立大様にも厚く御礼を申し上げます。

ボランティア組織として実施しているＪ：ＣＯＭ下関様連携「いきいき市民講座」は、2007年4月に、月2回の放映開始以来、この度第100回目を迎えることになりました。これを記念して、本日の特別番組が企画されました。地域社会の皆様方の温かいご支援に感謝し、引き続きの応援を宜しくお願い申し上げます。

ところで、3月11日の東日本大震災並びに福島第1原発事故発生から、既に3カ月経過しました。震災地は未だ復興の途次にあり、原発事故も収束に至っておりません。震災で亡くなられた方々には、心からのご冥福を祈り、被災された方々には、心からのお見舞いを申し上げます。

 Copyright Reserved.

北九州市は、岩手県釜石市に現地連絡事務所を設置し、職員を常駐させながら数年に亘る復興支援の継続を表明しました。また、下関市もいち早く看護師を派遣し、当地に本部キャンパスをもつ水産大学校は所有船“耕洋丸”に水や食糧を積んで海路震災地に向かったとのことであります。迅速な遠隔地支援行動に、深く敬意を表し、関門海峡を挟む両岸市の連携が更に強化されるヒントにつながることを願っております。

明治維新以降、我が国日本の近代化は、西欧社会に早く追いつき、先進国の仲間入りをすることを目標に、中央集権的体制を敷いて来ました。第二次世界大戦後の復興過程でも同じことが云えます。この中央集権的手法はそれなりの成果を収めて来ました。

この関門エリアは、維新体制を推進した長州藩や、アジア大陸との交流窓口になった下関、門司、工業化の象徴になった総合一貫製鉄所発祥の地：八幡（やわた）を有しております。日本の近代化や復興過程で大活躍し、繁栄したエリアであり、誇りとすべき稀有の精神風土と文化を擁しております。

しかし、維新以降既に 150 年。オーバー・ホールの時期を迎えつつあります。極端な一極集中の「集権」から、適度のパワー・バランスを保った中央と地方を構成する「分権」が時代の流れになってきました。関門エリアの足許を見つめ直し、更なる活性化に知恵を絞る絶好のチャンスでないかと考えております。

このような考えのもと、本日の基本テーマを「関門エリアの活性化」…若者のいる街は活性化する…に設定し、第 1 部と第 2 部に分けて構成することにしました。必然的に、活性化の原点になる“地域に必要な人材”は“地域自らが育成しなければならない”と云う命題にたどり着くのではないかと考えております。最後までご清聴下さい。

テーマ：「関門エリアの活性化を語る」
サブ・テーマ：”若者のいる街は活性化する”

第 1 部：鼎談“関門エリアの活性化を語る”
～若者のいる街は活性化する～【55 分】
出演者：(五十音順)
北九州市長　北橋　健治氏
下関市長　中尾　友昭氏
山口銀行頭取　福田　浩一氏
司　会：「いきいきモニター会議」会長　大隈　暉
アシスタント：福田　達也（東亜大）

 Copyright Reserved.

（１）若者が集う街～地域人材育成と定住策～
　・大学コンソーシアム関門
　・地域企業への就職
（２）関門エリアにおける金融と経済
　・地域金融と地域金融機関の役割
　・北九州銀行の設立
（３）観光と関門海峡
（４）まとめ　（関門連携の推進）

第２部：市長と若者が熱く語る
“関門エリアの未来と下関”　【55分】

出演者：下関市長　中尾　友昭氏　　若者代表　６名

1）大学生代表……３名
森永　俊さん（下関市立大　経済学科２年）
本山大智さん（東亜大　人間社会学科３年）
加藤誠也さん（水産大　専攻科船舶運航課程）

2）留学生代表……１名
紀　祥龍さん（中国）
（下関市立大　国際商学科２年）

3）働く若者代表……１名
須藤絢華さん
（家事手伝い、公務員志望）

4）若手経営者……１名
濱崎康一さん
（（有）丸山商事代表取締役）

司　会：下関市立大学准教授　佐藤　隆　アシスタント：福田達也（東亜大）

1. 若い人が楽しめるには、どういったこと・ものが必要と思うか
2. 関門海峡をどのように生かしたらよいか
3. 観光客を増やすには、どのようにしたらよいか

【大隈　暉 記】以上

関門大橋を通過する大型カー・キャリア（自動車輸送船）

 Copyright Reserved.

第２部収録風景：中央は下関市長

旧4管（現九州地方整備局）下関提供

上部：
北九州市

下部：
下関市

中央部：
関門海峡

上部左側
長方形：
北九州海
上空港

（関門海峡衛星写真：収録に提供されたパワー・ポイント資料より転載）

 Copyright Reserved.

11. 06. 19(日) 山口新聞(朝刊)

種郵便物認可

下関・北九州市長と山銀頭取、討論

若者が定着する海峡都市めざす

下関市立大で市民講座

関門地域の活性化について討論する（左から）北橋健治北九州市長、中尾友昭下関市長、山口銀行の福田浩一頭取

下関、北九州両市の地域活性化について話し合う市民講座が18日、下関市大学町の下関市立大学であった。市内の有識者でつくる「いきいきモニター会議」（大隈暉会長）が主催する「ジェイコム下関連携『いきいき市民講座』」の100回を記念した特別企画。

第1部では、中尾友昭下関市長、北橋健治北九州市長と山口銀行の福田浩一頭取が「関門エリアの活性化を語る」と題して討論。大学の活用や経済、観光の視点から議論を展開した。

両市内の大学を卒業した若者が市外に就職することが多い現状に対して、両市長がそれぞれの市の取り組みを紹介。福田頭取は「学生の希望は大手企業に集中している。企業は『不況だからこそ優秀な学生が来るだろう』と待ちの姿勢になっているようだ」と学生と企業のミスマッチがあることを指摘した。

地域の活性化には若者の存在が不可欠として、大学間の連携強化などの意義を再確認し、「海と緑に囲まれた魅力ある海峡都市を目指そう」と締めくくった。

第2部では、中尾市長と下関市内の学生ら若者代表6人が「関門エリアの未来と下関」と題して意見交換した。

Copyright Reserved.